

2019年度（2020年3月期） 第2四半期 決算説明会

2019年 10月 30日
セイコーエプソン株式会社



■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

年号：断りが無い限り、会計年度を示す

- 2019年度 第2四半期決算
- 2019年度 通期業績予想
- 社会課題解決に向けて

2019年度 第2四半期決算 | ハイライト



	2018年度		2019年度		前年同期比				
	(億円)	2Q実績	%	2Q実績	%	増減額	増減率		
売上収益		2,719		2,664		-54	-2.0%		
事業利益		127	4.7%	146	5.5%	+18	+14.6%		
営業利益		121	4.5%	159	6.0%	+37	+31.3%		
税引前利益		125	4.6%	162	6.1%	+36	+29.2%		
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		90	3.3%	120	4.5%	+29	+32.8%		
EPS*1 (円)		25.67		34.63					
為替レート (円、指数)	USD	¥111.46		¥107.31					
	EUR	¥129.66		¥119.34					
	その他通貨*2	100		94					
<small>*1 EPS: 基本的1株当たり当期利益 *2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて加重平均した値について、前年同期を100とした指数</small>				前年同期に対する 為替影響額 (億円)		USD	EUR	その他 通貨合計	合計
				売上収益		-30	-35	-47	-112
				事業利益		+10	-22	-23	-34

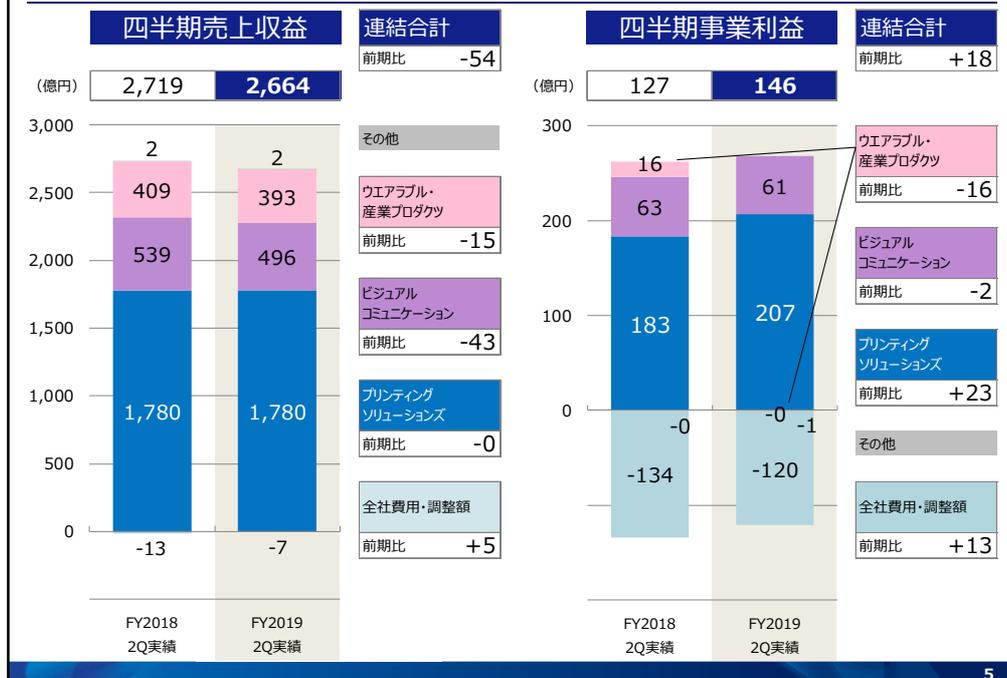
3

- 第2四半期の実績はご覧の通りです。
- 売上収益は、前年同期比 54億円 減収の 2,664億円、
事業利益は、18億円 増益の 146億円、
四半期利益は、29億円 増益の 120億円 となりました。
- 当四半期の為替変動による影響額はスライドの通りです。

- ◆ 想定を超えるマクロ経済活動の停滞や円高のさらなる進行など、厳しい事業環境が継続
 - 中国、インドなどに加え、欧米各国にも市況悪化が拡大
 - ユーロ、人民元、南米通貨などでも円高進行
- ◆ 売上収益は前年同期比 減収
 - 為替のマイナス影響や軟調な市況影響を受ける
 - ✓ プロジェクター、マイクロデバイス他、ロボットなど
 - 強化領域での取り組みは前進
 - ✓ 大容量インクタンクモデル・オフィス共有IJPは販売拡大
- ◆ 事業利益は前年同期比 増益
 - 為替影響はあるものの、大容量インクモデルの増加・インクカートリッジモデル本体の減少や固定費の抑制効果などにより増益

- 第2四半期決算のポイントについてご説明します。
- 厳しい外部環境の継続は、これまでの予想にも織り込んでいましたが、経済活動の停滞は想定を超える範囲に拡大し、中国、インドなどに加え、欧米各国にも広がっています。
- また、為替は、USドル、ユーロだけでなく、人民元や南米通貨などでも円高が進行し、エプソンの業績にも大きな影響を与えました。
- 売上収益は、為替のマイナス影響を受けたことに加え、プロジェクターやマイクロデバイス、ロボットなどを中心に、多くの事業や商品で市況悪化により販売が減少しましたが、大容量インクタンクモデルやオフィス共有IJPなどの、強化領域での販売は拡大しています。
- 事業利益は、為替のマイナス影響は受けたものの、プリンターでビジネスモデル転換を進めていることで、大容量インクモデルなどの増加や、インクカートリッジモデル本体の生産減少に伴うコストの減少に加え、全社での固定費抑制効果などもあり、増益となりました。
- なお、前回予想の前提となる社内計画に対しては、為替のマイナス影響に加え、プロジェクター、ロボット、マイクロデバイスなどでの市場悪化などもあり売上収益は未達となりました。
- 一方で、事業利益は、30億円弱の為替のマイナス影響を受けながらも、全社を挙げて費用抑制に努めたことなどもあり、数億円程度計画を上回りました。

2019年度 第2四半期実績 | 事業セグメント別



- こちらは、当第2四半期におけるセグメント別の売上収益、事業利益の前年同期比較です。
- 以降のスライドで、セグメントごとの詳細をご説明します。

(億円)

プリンティングソリューションズ	2018年度 2Q実績	2019年度 2Q実績	前年 同期比	為替 影響額	
売上収益	1,780	1,780	-0	-76	<プリンター> ◆ IJP: ・SOHO・ホーム向けインクカートリッジモデル本体・インク減少 ・大容量インクタンクモデルは、エマージング地域・先進国ともに販売数量増加 ・オフィス共有IJPは順調に拡大 ◆ SIDM: ・中国中心に需要減少 <プロフェッショナルプリンティング> ◆ 商業・産業IJP: ・強化領域・既存領域とも堅調 ◆ POSプリンター: ・イタリアや日本で案件獲得 <その他> ◆ PC: ・OS切り替え需要獲得
プリンター	1,236	1,199	-37		
構成比 IJP	83%	83%			
SIDM	8%	8%			
その他	9%	9%			
プロフェッショナルプリンティング	500	498	-2		
その他	43	83	+39		
事業間売上収益	-0	-0	+0		
セグメント利益	183	207	+23	-20	
セグメント利益率	10.3%	11.6%			

6

- プリンティングソリューションズの前年同期比較は、ご覧の通りです。
- プリンター事業は、為替影響により減収となりました。
- インクジェットプリンターは、SOHO・ホーム向けのインクカートリッジモデル本体やインクの減少の一方で、大容量インクタンクモデルが増加しました。
- 大容量インクタンクモデルは、中国・インドは弱含んで推移したものの、先進国をはじめとして、その他の地域では順調に販売が伸び、全体でも前年同期から10%を超える販売台数増加となるなど、軟調であった第1四半期から成長のスピードは回復しました。
- オフィス共有IJPは、日本でのスマートチャージモデルのリプレイス需要の獲得や文教などターゲット市場向け拡販が進んでいること、また、欧州でディーラーによる案件獲得が進んだことで、増収となりました。
- プロフェッショナルプリンティングは、堅調な販売が続きましたが、為替のマイナス影響により、前年同期並みとなりました。
- 商業・産業IJPは、強化領域、既存領域ともに堅調な販売となり、POSプリンターも、イタリアや日本で税制改定に伴う案件獲得がありました。
- その他の増収は、OS切り替えに伴うPCの更新需要を取り込んだものです。
- セグメント利益は、為替影響を受けながらも、戦略商品の販売増加や、費用削減効果などもあり、増益となりました。
- なお、セグメント利益のうち、プリンター事業が占める割合は、4割半ば程度となりました。
- 社内計画に対しては、セグメント全体では概ね計画通りの販売となりましたが、為替影響により売上収益は未達となりました。
- 一方で、セグメント利益は、費用抑制に努めたことで計画を上回りました。

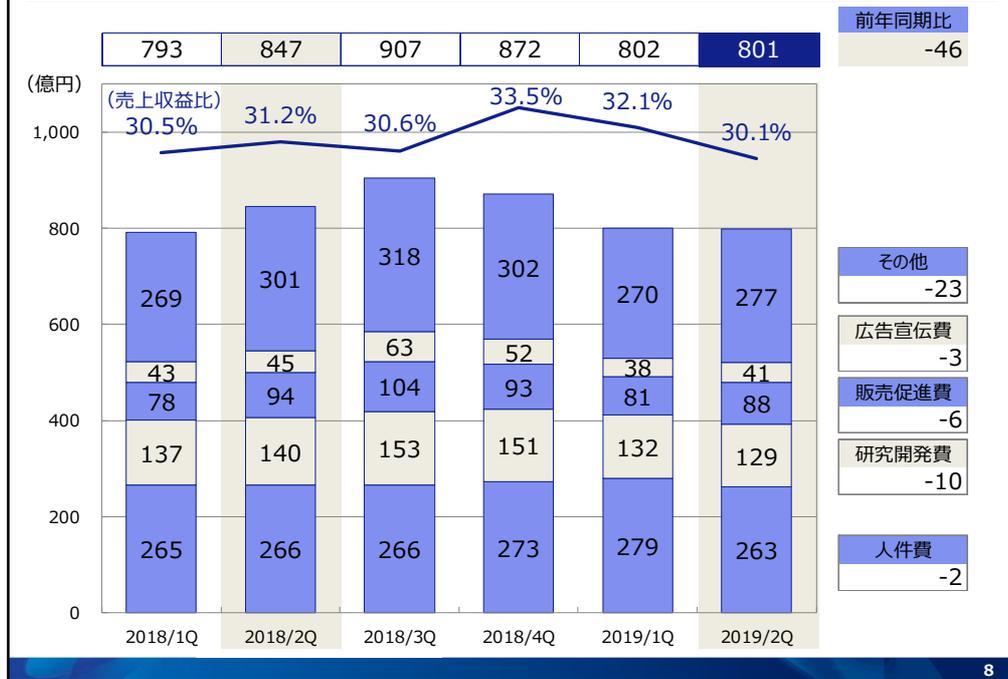
				(億円)		
ビジュアルコミュニケーション	2018年度 2Q実績	2019年度 2Q実績	前年 同期比	為替 影響額		◆ プロジェクター： ・米州やインドなどで市場停滞 ・スタンダードモデル中心に減少
売上収益	539	496	-43	-26		
セグメント利益	63	61	-2	-10		
セグメント利益率	11.7%	12.3%				

				(億円)		
ウェアラブル・産業プロダクツ	2018年度 2Q実績	2019年度 2Q実績	前年 同期比	為替 影響額		◆ ウォッチ： ・高価格帯ウォッチは堅調 ・中・低価格帯ウォッチ、ムーブメント減少 ◆ ロボット： ・大口案件で投資抑制 ・用途拡大進展 ◆ マイクロデバイス他： ・半導体を中心に軟調な需要継続
売上収益	409	393	-15	-11		
ウェアラブル機器	121	117	-4			
ロボティクスソリューションズ	50	51	+1			
マイクロデバイス他	252	239	-13			
事業間売上収益	-14	-14	+0			
セグメント利益	16	-0	-16	-4		
セグメント利益率	4.0%	-0.0%				

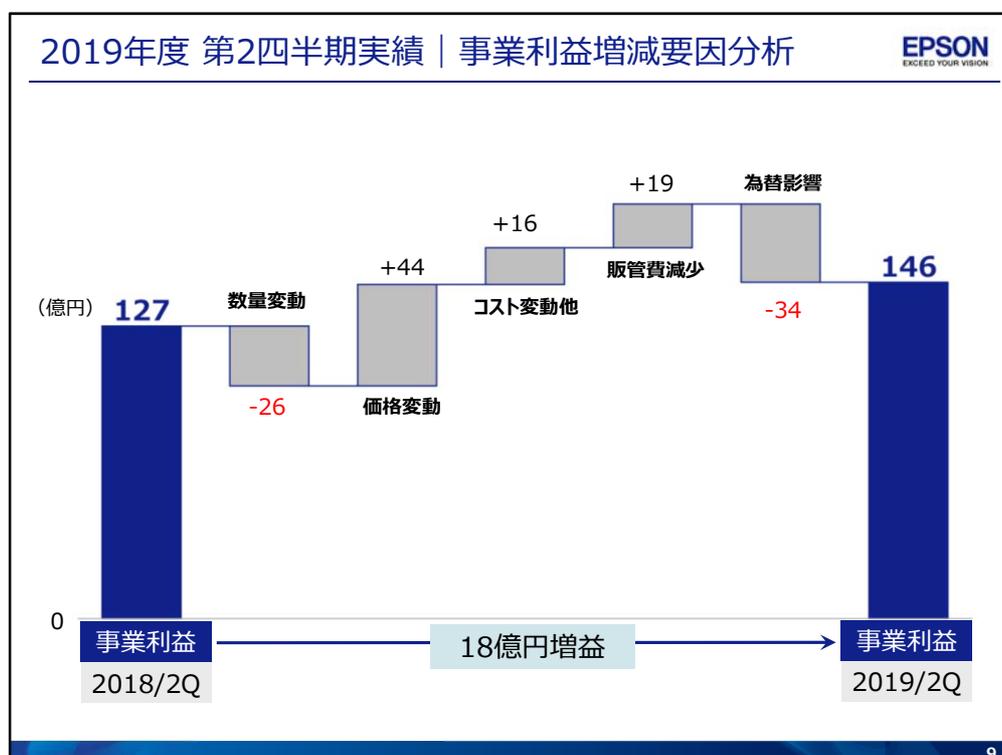
- ビジュアルコミュニケーションは、米州やインドなどでプロジェクターの市場停滞により、スタンダードモデルを中心に販売が減少したことに加え、為替のマイナス影響もあり、減収となりました。
- セグメント利益は、数量減少による影響はあるものの、モデルミックス影響や在庫増加の影響により、前年同期並みとなりました。
- 社内計画に対しては、売上収益、事業利益とも未達となりました。

- ウェアラブル・産業プロダクツの実績はご覧の通りです。
- ウェアラブル機器は、高価格帯ウォッチやオリエントが増加した一方で、中・低価格帯ウォッチやムーブメントの需要が低調に推移しました。
- ロボティクスソリューションズは、中国に加え、欧米でも大口案件で投資の抑制がありましたが、着実に用途拡大が進んでいることで、前年同期並みとなりました。
- マイクロデバイス他は、半導体を中心に軟調な需要が継続しことに加え、為替のマイナス影響もあり減収となりました。
- セグメント利益は、ウェアラブル機器での費用削減効果はあるものの、マイクロデバイス他での減収影響や、ロボティクスソリューションズでの体制強化費用の増加により、減益となりました。
- 社内計画に対しては、売上収益、事業利益ともに未達となりました。

販売費および一般管理費 主要科目別推移

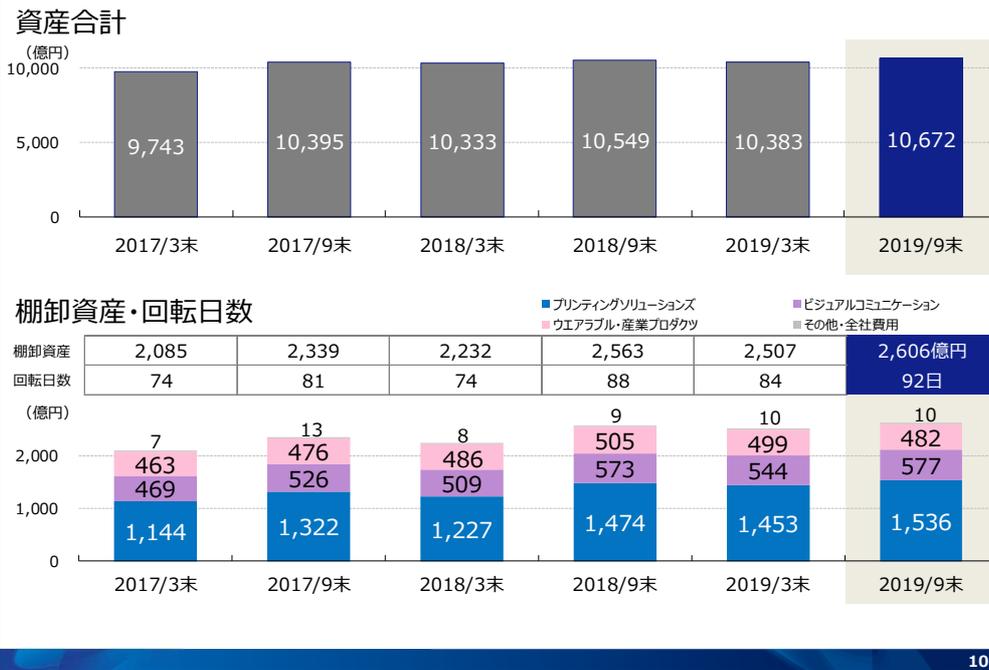


- 販売費及び一般管理費の四半期推移は、ご覧のとおりです。
- 強化すべきBtoBビジネスの領域や、先進国での大容量インクタンクモデルの拡販費用などは積極的に費用を投下する一方で、効率化すべき領域においては、一層の削減を進めるなど、メリハリを効かせていることで、販売費及び一般管理費全体で削減が進みました。



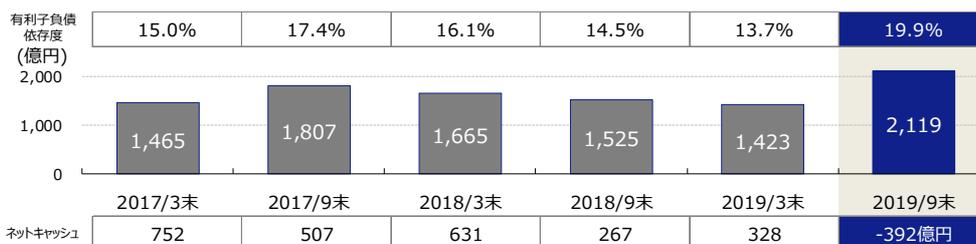
- 事業利益の増減要因分析は、ご覧のとおりです。
- 数量変動は、大容量インクタンクモデルなどでプラスとなりましたが、プロジェクター、半導体などのマイナスが上回りました。
- 価格変動は、プロジェクター、半導体でのモデルミックス変動などのプラスがありました。なお、大容量インクタンクモデルは、地域ごとには価格対応は実施しているものの、先進国比率の増加などにより、全体では大きな価格変動影響はありません。
- コスト変動他は、オフィス共有IJPや商業・産業IJPなどの高付加価値商品の拡大に伴ったコストの増加はありますが、インクカートリッジモデル本体の生産減少に伴う費用の減少などもあり、全体でプラスとなりました。

財政状態計算書 主要項目推移

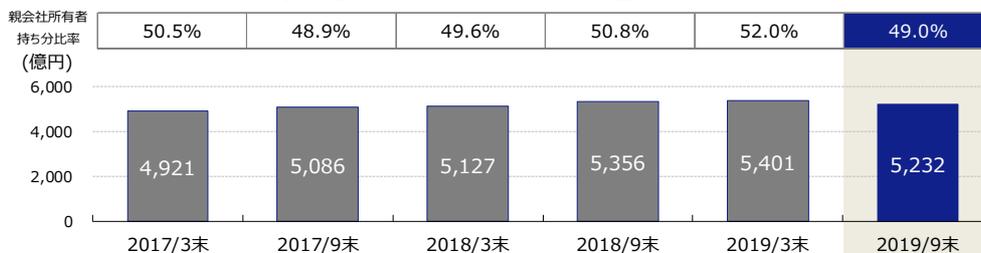


- 財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、前連結会計年度末に対して288億円増加し、10,672億円となりました。
- 売上債権及びその他の債権が減少した一方で、新リース会計基準の適用などによる有形固定資産の増加、棚卸資産の増加がありました。
- 棚卸資産は、前期末に対して98億円増加し、2,606億円となりました。
- これは、プレグジットに備えた対応を実施しているほか、POSプリンターの需要増や、大判プリンターの新商品立ち上げに備えた在庫の増加に加え、プロジェクターの市況停滞の影響などによります。
- 在庫に関しては、前回の決算説明会でもお話した通り、全社の重点活動の一つとして手を打っており、市場予測や、販売計画、生産計画をより一層厳しい前提に置いたうえで削減を進めています。

有利子負債・有利子負債依存度、ネットキャッシュ



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率



- 有利子負債は、社債の発行や借入金の増加のほか、新会計基準適用によるリース負債分の 277億円が含まれたことなどにより、前期末に対して 695億円増加し、資産合計の有利子負債依存度は 19.9%となりました。
- ネットキャッシュは、有利子負債の増加に加え、自己株式取得により現預金が減少し、392億円のマイナスとなりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、配当金の支払、自己株式の取得などにより、前期末に対して169億円減少し、親会社所有者帰属持分比率は、49.0%となりました。

- 2019年度 第2四半期決算
- 2019年度 通期業績予想
- 社会課題解決に向けて

2019年度 通期業績予想 | ハイライト

	2018年度		2019年度				増減額		
	(億円)	実績	%	7/30予想	%	10/30予想	%	前期比	7/30予想比
売上収益		10,896		11,300		10,600		-296	-700
								-2.7%	-6.2%
事業利益		704	6.5%	650	5.8%	420	4.0%	-284	-230
								-40.4%	-35.4%
営業利益		713	6.5%	600	5.3%	370	3.5%	-343	-230
								-48.1%	-38.3%
税引前利益		720	6.6%	590	5.2%	360	3.4%	-360	-230
								-50.0%	-39.0%
親会社の所有者に帰属する 当期利益		537	4.9%	450	4.0%	270	2.5%	-267	-180
								-49.7%	-40.0%
EPS ^{*1} (円)		152.49		129.07		78.03			
為替レート (円、指数)	USD	¥110.86		¥110.00		¥107.00			
	EUR	¥128.40		¥125.00		¥118.00			
	その他通貨 ^{*2}	100		98		92			
第3四半期以降の 為替前提(円)	USD	105.00	為替感応度(億円) ^{*3}		USD	EUR	その他通貨 合計	年間為替 影響額見込み	
	EUR	115.00	売上収益		△30	△15	△30	△530	
			事業利益		+7	△10	△13	△200	

*1 EPS：基本的1株当たり当期利益
*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて加重平均した値について、前期を100とした指数
*3 USD/EURは1円の円高による年間影響額（億円）、その他通貨は1%の円高による年間影響額（億円）

13

- 通期業績予想は、マクロ経済環境や、為替水準を踏まえ、
前回予想から、
売上収益は 700億円、事業利益、営業利益、税引前利益はそれぞれ 230億円、
当期利益は 180億円 下方修正しました。
- なお、売上収益の修正額 700億円のうち、
為替前提の変更によるマイナス影響は、約400億円です。
- また、事業利益の修正額 230億円のうち、
約150億円が為替のマイナス影響、
残り約80億円に厳しい事業環境を反映させました。
- その結果、
売上収益は、 1兆600億円
事業利益は、 420億円
当期利益は、 270億円 となります。
- なお、前年度からの為替変動による影響額は、
売上収益で、 約530億円 のマイナス
事業利益で、 約200億円 のマイナスを見込みます。

**◆想定以上のマクロ経済悪化・円高の進行により
業績予想を修正**

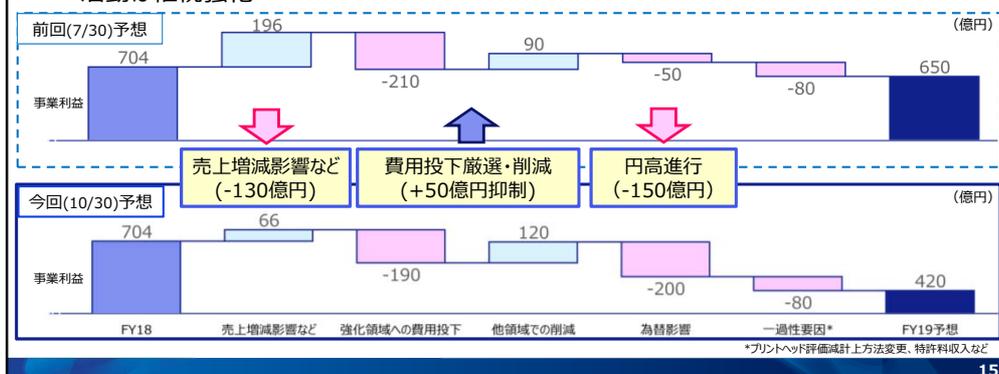
- プリンターは、中国、インドに加え、欧米でも需要が停滞
 - ✓ただし、大容量インクタンクモデルは先進国・エマージング地域で引き続き拡大を見込む
- プロジェクターは市場停滞が継続
- ウェアラブル・産業プロダクツは中国に加え、欧米でも市況が停滞

**◆厳しい事業環境を踏まえ、総原価低減活動の強化と
事業・商品の一層の選択と集中を進める**

- 2019年度通期業績予想のポイントについてご説明します。
- 配布したスライドの補足資料26ページにもある通り、第2四半期までの累計では、売上収益、事業利益とも為替影響を受け、前年同期に対して減収、減益となったものの、強化領域での販売などは、進展させることができたと考えています。
- しかしながら、エプソンを取り巻く環境の悪化は、欧米など各地に拡大し始めています。
- また、円高も一層進行しています。
- こうした状況を鑑み、マクロ環境は一層悪化するという、さらに厳しい前提を置くこととしました。
- プリンティングソリューションズでは、市場は厳しい環境で推移することを見込みます。
- ただし、大容量インクタンクモデルは、競合の攻勢を織り込みながらも、第2四半期までの実績や、下期は先進国での需要拡大が見込めることを踏まえると、1,020万台の販売目標に変更は無く、先進国・エマージング地域それぞれでの拡大を見込んでいます。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターの、市場停滞が長引き、また、ウェアラブル・産業プロダクツでは、市況の停滞が、拡大することを見込みました。
- このような、一層厳しい事業環境を前提に置きながら、総原価低減活動の強化と、事業領域や地域の選択と集中を進めています。

◆ 将来成長に必要な経営資源の投下は、選択と集中を進め、重点的・効率的に実施

- 強化領域での費用投下案件の厳選、効率化領域での一層の削減を実施
 - ✓ 強化領域：大容量インクタンクモデル、オフィス共有IJP、商業・産業IJP（サインージ・テキスタイル）、プリントヘッド外販ビジネス、高光束プロジェクター、ロボット、QD(通信・車載関連)、PaperLabなど
 - ✓ 効率化領域：従来型IJP(I/Cモデルなど)の開発・設計、プロジェクター（高光束以外）の開発・設計、ウォッチなど
- 中長期の経営基盤強化に向けたICT投資/DX加速やオープンイノベーションを支える活動は継続強化



- 第2期中期経営計画の説明の場でも、「経済環境、戦略の実効性を踏まえた規律ある経営資源の投入」を実施するとご説明しましたが、足元の状況を踏まえ、より一層の選択と集中を進めています。
- スライドのグラフをご覧ください。
- 昨年度の事業利益704億円を起点とし、今年度の予想の前提を要因別に示したものです。
- 上段は、前回予想の前提を示したものの、下段は今回予想の前提を示したものです。
- ご覧のように、マクロ経済の悪化により売上収益を修正したことで、売上増減影響は約130億円減少し、円高の影響は、前回予想からさらに150億円の悪化を予想しました。
- このような見通しを踏まえ、強化領域では、販売面はもちろん、開発・設計の強化などの費用投下を進めながらも、地域や商品ごとに強弱をつけることで、費用を抑制しています。
- 一方で、効率化すべき領域では開発テーマの厳選など、商品ごとに見直しを実施し、費用を削減しながら、安定的な利益創出を目指しています。
- 以上の取り組みにより、全社では、前回予想から追加的に50億円の削減を実施しています。

- ◆ 厳しい環境下であるが、成長への備えは着実に実施
 - 大容量インクタンクモデルの先進国プロモーション継続
 - ✓ 顧客接点強化に向けた多様な販売プランの提案
 - オフィス共有IJP、商業・産業IJPの拡大
 - プロジェクターは、これまでに積み上げた強みを活用した効率的な事業運営により、安定的な利益成長を実現
 - ✓ 顧客接点・レーザー光源プラットフォームなどの最大活用
 - ロボットは、支柱事業化に向けての整備を実施



- 続いて、下期の各事業での取り組みをご説明します。
- 費用投下は、全体で抑制しますが、成長への備えは着実に実施していきます。
- 大容量インクタンクモデルは、北米においては、プロモーションの効果が販売につながっており、商戦期に向けて順調に進んでいます。また、日本でも、10月24日に発売した新モデルの販売状況も良好であるなど、先進国での販売増加が期待できます。
- 今後も、先進国でのプロモーションを強化するとともに、顧客接点強化に向けても、多様な販売プランの提供を進めていくことで、プリンティング市場でのインクジェットプリンターのプレゼンス拡大を進めていきます。
- 加えて、エマージング地域においても、市場環境が厳しい中、第2四半期には成長軌道に回復しています。今後も、競合の攻勢も強まることを織り込みながらも、成長の継続を予想しています。
- また、オフィス共有IJPは、安定的な成長が継続しています。
例えば、日本の文教市場向けには、用途別に複数の場所に分散されていたプリンターを、高速ラインインクジェット複合機に集約することで、印刷に関わる業務負担を大幅に軽減し、教職員の労働環境の改善という新たな価値を提供しながら、レーザーや孔版印刷機からの置き換えを進めています。
- 商業・産業IJPも、市況停滞の影響を受けながらも、販売拡大は継続しています。
- 大判プリンターでは、顧客ニーズに応えた、生産性の高い新商品投入が始まっています。また、プリントヘッド外販ビジネスでは、エプソンを採用するお客様が増加していますので、成長加速に向けての準備はしっかりと前進させていきます。
- プロジェクターは、市場停滞が継続しています。
- これは、経済活動の停滞に加え、フラットパネルディスプレイの低価格化による攻勢も影響していると考えています。
- こうした市場認識のもと、顧客接点の強みや、高い市場シェアを生かした販売オペレーションの実施とともに、レーザー光源プラットフォームを活用した高光束プロジェクター分野を強化するなど、効率的な事業運営を行うことで、安定的な利益成長を実現させていきます。
- ロボットは、急速な市場回復は見込めませんが、中期的には大きな可能性を持っている事業ですので、体制強化などを着実に実施していきます。

(億円)

プリンティングソリューションズ	2018年度 実績	2019年度 前回予想	2019年度 今回予想	前期比	前回予想比
売上収益	7,236	7,510	7,100	-136	-410
プリンター	5,059	5,130	4,790	-269	-340
構成比 IJP	84%	84%	84%		
SIDM	8%	7%	7%		
その他	8%	9%	9%		
プロフェッショナルプリンティング	1,980	2,170	2,070	+89	-100
その他	197	210	240	+42	+30
事業間売上収益	-1	0	0	+1	-
セグメント利益	945	870	740	-205	-130
セグメント利益率	13.1%	11.6%	10.4%		

18

- プリンティングソリューションズの通期予想はご覧の通りです。
- マクロ経済の停滞に加え、為替のマイナス影響を織り込みました。
- プリンター事業では、インクジェットプリンターのインクカートリッジモデル、オフィス共有IJP、SIDMの販売数量などを修正しています。
- なお、大容量インクタンクモデルは、通期での販売台数1,020万台に変更はありません。
- プロフェッショナルプリンティングは、為替の影響を受け、売上収益予想を修正しました。
- その他では、PC販売が好調である分を織り込みました。

- なお、セグメント利益に占めるプリンター事業の割合は、4割半ば程度となります。

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2018年度 実績	2019年度 前回予想	2019年度 今回予想	前期比	前回予想比
売上収益	2,033	2,110	1,960	-73	-150
セグメント利益	212	220	150	-62	-70
セグメント利益率	10.4%	10.4%	7.7%		

(億円)

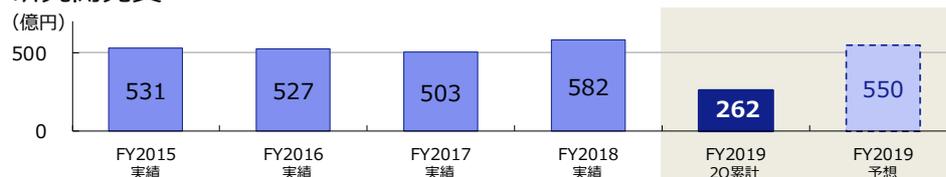
ウェアラブル・産業プロダクツ	2018年度 実績	2019年度 前回予想	2019年度 今回予想	前期比	前回予想比
売上収益	1,634	1,700	1,560	-74	-140
ウェアラブル機器	498	500	460	-38	-40
ロボティクスソリューションズ	226	260	210	-16	-50
マイクロデバイス他	966	990	940	-26	-50
事業間売上収益	-58	-50	-50	+8	-
セグメント利益	55	90	40	-15	-50
セグメント利益率	3.4%	5.3%	2.6%		

19

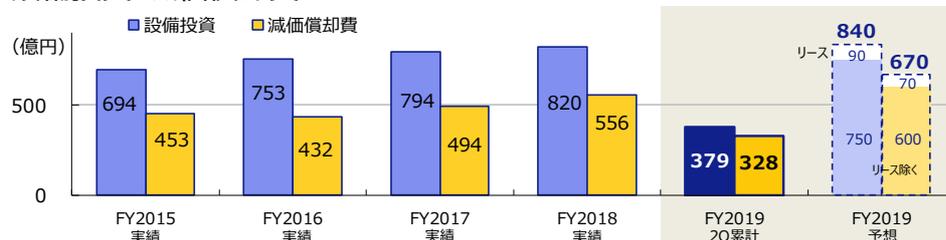
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクター市場の停滞影響を織り込むとともに、為替影響を反映しました。
- ウェアラブル・産業プロダクツでは、ウェアラブル機器事業において、ウォッチの中・低価格モデルやムーブメントの需要を修正しました。
- また、ロボティクスソリューションズは、欧米向け需要を修正しました。
- マイクロデバイス他では、中国を中心とした市況停滞や、金属粉末の需要の減少などを反映しました。

主要費用・設備投資

研究開発費



設備投資・減価償却費



	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
プリンティングソリューションズ	224	181	450	390
ビジュアルコミュニケーション	47	56	150	120
ウェアラブル・産業プロダクト	77	50	150	100
その他・全社費用	29	39	90	60

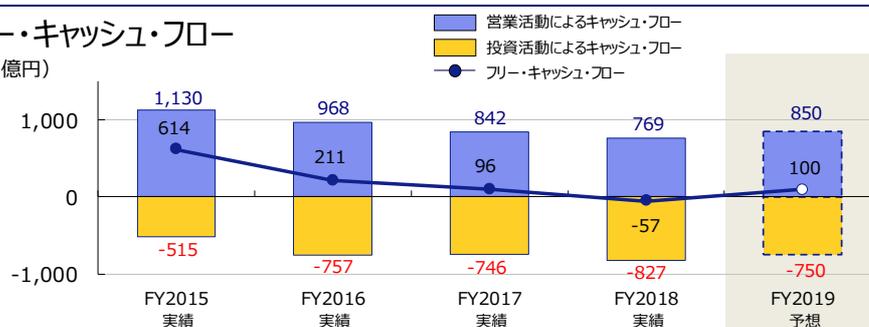
FY2019 予想にはリースを含む

- 研究開発費、および設備投資、減価償却費の実績ならびに予想は、ご覧のとおりです。
- いずれも、前回予想から費用や投資の抑制を実施します。

フリー・キャッシュ・フロー/主な経営指標

フリー・キャッシュ・フロー

(億円)



主な経営指標

(%)

	FY2015 実績	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 実績	FY2019 予想
ROS 売上収益 事業利益率	7.8	6.4	6.8	6.5	4.0
ROA 資産合計 事業利益率	8.7	6.9	7.4	6.8	3.9
ROE 親会社所有者帰属持分 当期利益率	9.5	10.1	8.3	10.2	5.1

21

- フリー・キャッシュ・フローおよび主な経営指標はご覧の通りです。
- 設備投資などは案件の厳選を進めることで、投資活動によるキャッシュ・フローは前回予想から減少しますが、営業活動によるキャッシュ・フローの予想を引き下げたことで、フリー・キャッシュ・フローは100億円の予想となります。
- キャッシュ創出に向けては、売上収益の最大化とともに、費用の削減や効率化、在庫削減など、全社を挙げて取り組んでまいります。

- 2019年度 第2四半期決算
- 2019年度 通期業績予想
- 社会課題解決に向けて

生産現場の革新

The infographic is divided into two main sections. The left section features images of various Epson inkjet printers and a large industrial inkjet printer. A yellow circle contains three bullet points: '高精度な色合わせ' (High precision color matching), '簡便な作業工程' (Simple operation process), and '安全な作業工程' (Safe operation process). Below these images is the text: '多品種少量生産に応える インクジェットソリューションにより 生産性向上と環境配慮を両立' (Responding to multi-variety, low-volume production with inkjet solutions, achieving both productivity improvement and environmental consideration). The right section features images of two different Epson industrial robots. A yellow circle contains three bullet points: '省スペース・軽量' (Space-saving and lightweight), 'センサー応用によるヒト作業の置き換え' (Replacement of human work by sensor application), and '容易なティーチング' (Easy teaching). Below these images is the text: '自動化のハードルを下げる ロボットのソリューション提供により 生産性向上と労働環境改善を実現' (Lowering the barrier to automation with robot solution provision, achieving both productivity improvement and working environment improvement).

✓ 高精度な色合わせ
✓ 簡便な作業工程
✓ 安全な作業工程

多品種少量生産に応える
インクジェットソリューションにより
生産性向上と環境配慮を両立

✓ 省スペース・軽量
✓ センサー応用による
ヒト作業の置き換え
✓ 容易なティーチング

自動化のハードルを下げる
ロボットのソリューション提供により
生産性向上と労働環境改善を実現

23

- 持続可能な社会の実現に対する期待が高まっています。
- 私たちエプソンは、産業構造を革新するとともに、循環型経済の牽引をすることで、持続可能な社会の実現に貢献し、社会にとって「なくてはならない会社」を目指しています。
- 例えば、生産現場では、マイクロピエゾプリントヘッドの特徴を生かし、生産性向上と環境配慮を両立したインクジェットソリューションを提供し続けます。
- また、人手に頼っていた小型精密組み立ての現場では、ロボットのソリューション提供により、生産性向上と労働環境の改善に貢献していきます。

オフィス環境の革新



印刷コストや環境負荷を気にせず
紙を使った円滑かつ生産性の高い
コミュニケーションの実現



- ✓ レーザー光源による
明るい・高解像度投写
- ✓ 超短焦点レンズ
による大画面投写
- ✓ インタラクティブ

距離を感じることはない一体感で
生産性の高いコミュニケーションを実現

TCFD提言への対応

- 2019年10月、提言への賛同を表明
- 事業のあらゆる場面で気候変動対策に取り組む

24

- オフィスにおいても、マイクロピエゾテクノロジーによるプリンターや、ドライファイバーテクノロジーをベースとしたオフィス製紙機などにより、紙を使った円滑で生産性の高いコミュニケーションを提供します。
- また、プロジェクターを用いた拡張オフィスなどを提供することで、距離を感じることはない一体感のあるコミュニケーションを実現していきます。
- 以上

補足資料

2019年度 第2四半期累計 | ハイライト



	2018年度		2019年度		前年同期比		
	(億円)	2Q累計実績	%	2Q累計実績	%	増減額	増減率
売上収益		5,323		5,161		-162	-3.1%
事業利益		274	5.1%	191	3.7%	-82	-30.1%
営業利益		256	4.8%	193	3.7%	-62	-24.5%
税引前利益		269	5.1%	191	3.7%	-77	-29.0%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		202	3.8%	122	2.4%	-79	-39.3%
EPS*1 (円)		57.38		35.14			
為替レート (円、指数)	USD	¥110.26		¥108.62			
	EUR	¥129.88		¥121.44			
	その他通貨*2	100		94			

*1 EPS：基本的1株当たり当期利益
*2 その他通貨の各レートを為替ポリュームに応じて加重平均した値について、前期を100とした指数

前年同期に対する 為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他 通貨合計	合計
売上収益	-24	-55	-85	-164
事業利益	+8	-33	-41	-66

2019年度 第2四半期累計 | 事業セグメント別

2Q累計売上収益

(億円) 5,323 **5,161**



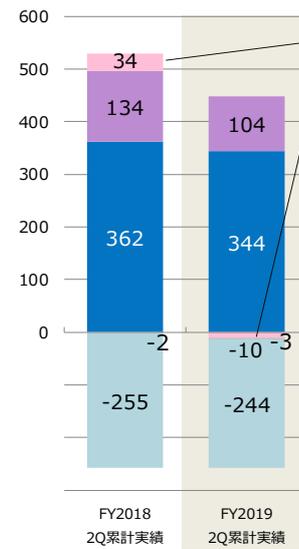
連結合計

前期比 -162

その他	
ウェアラブル・産業プロダクト	前期比 -66
ビジュアルコミュニケーション	前期比 -64
プリンティングソリューションズ	前期比 -34
全社費用・調整額	前期比 +3

2Q累計事業利益

(億円) 274 **191**



連結合計

前期比 -82

ウェアラブル・産業プロダクト	前期比 -44
ビジュアルコミュニケーション	前期比 -29
プリンティングソリューションズ	前期比 -18
その他	
全社費用・調整額	前期比 +10

(億円)

プリンティングソリューションズ	2018年度 2Q累計	2019年度 2Q累計	前年 同期比	為替 影響額
売上収益	3,447	3,412	-34	-114
プリンター	2,400	2,280	-119	
構成比				
IJP	83%	83%		
SIDM	9%	8%		
その他	8%	9%		
プロフェッショナルプリンティング	963	990	+27	
その他	83	141	+58	
事業間売上収益	-0	-0	+0	
セグメント利益	362	344	-18	-45
セグメント利益率	10.5%	10.1%		

(億円)

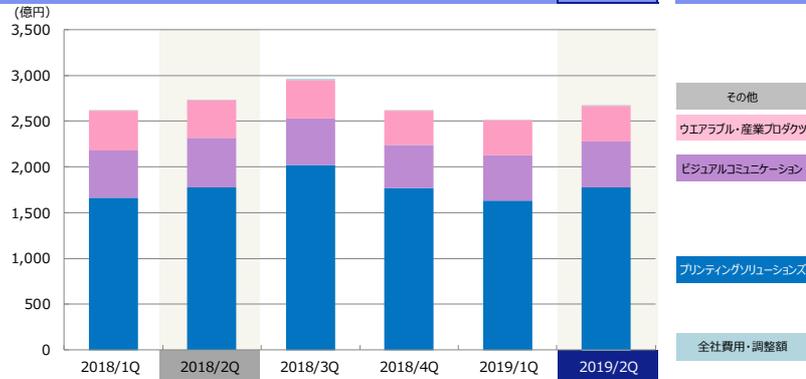
ビジュアルコミュニケーション	2018年度 2Q累計	2019年度 2Q累計	前年 同期比	為替 影響額
売上収益	1,053	989	-64	-38
セグメント利益	134	104	-29	-19
セグメント利益率	12.8%	10.6%		

(億円)

ウェアラブル・産業プロダクツ	2018年度 2Q累計	2019年度 2Q累計	前年 同期比	為替 影響額
売上収益	840	774	-66	-12
ウェアラブル機器	245	229	-16	
ロボティクスソリューションズ	124	101	-22	
マイクロデバイス他	501	473	-28	
事業間売上収益	-30	-29	+1	
セグメント利益	34	-10	-44	-2
セグメント利益率	4.1%	-1.3%		

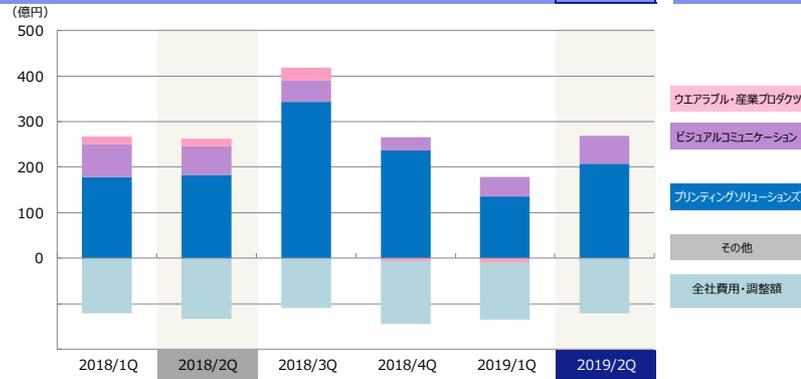
四半期 売上収益推移 | 事業セグメント別

為替レート (円)	USD	109.06	111.46	112.80	110.14	109.93	107.31	-4.15
	EUR	130.09	129.66	128.73	125.13	123.54	119.34	-10.32
売上収益 (億円)	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	2019/1Q	2019/2Q	前年同期比	
プリンティングソリューションズ	1,666	1,780	2,017	1,772	1,632	1,780	-0	
ビジュアルコミュニケーション	514	539	510	468	492	496	-43	
ウェアラブル・産業プロダクト	431	409	419	374	381	393	-15	
その他	2	2	2	2	2	2	+0	
全社費用・調整額	-9	-13	17	-11	-11	-7	+5	
連結合計	2,604	2,719	2,966	2,606	2,496	2,664	-54	



四半期 事業利益推移 | 事業セグメント別

為替レート (円)	USD	109.06	111.46	112.80	110.14	109.93	107.31	-4.15
	EUR	130.09	129.66	128.73	125.13	123.54	119.34	-10.32
事業利益 (億円)	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	2019/1Q	2019/2Q	前年同期比	
プリンティングソリューションズ	179	183	344	237	136	207	+23	
ビジュアルコミュニケーション	71	63	47	29	43	61	-2	
ウェアラブル・産業プロダクト	17	16	27	-6	-10	-0	-16	
その他	-1	-0	-1	-0	-2	-1	-0	
全社費用・調整額	-120	-134	-108	-138	-123	-120	+13	
連結合計	146	127	309	121	45	146	+18	



海外売上収益・従業員数

海外売上収益

為替レート (円)	USD	109.06	111.46	112.80	110.14	109.93	107.31	-4.15
	EUR	130.09	129.66	128.73	125.13	123.54	119.34	-10.32

売上収益 (億円)	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	2019/1Q	2019/2Q	前年同期比
米州	755	821	770	757	745	717	-104
欧州	528	520	636	566	479	537	+16
アジア・オセアニア	792	794	761	675	725	758	-35
海外売上収益計	2,076	2,137	2,168	1,999	1,951	2,014	-122
連結合計	2,604	2,719	2,966	2,606	2,496	2,664	-54

構成比	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	2019/1Q	2019/2Q
米州	29.0%	30.2%	26.0%	29.1%	29.9%	26.9%
欧州	20.3%	19.1%	21.5%	21.7%	19.2%	20.2%
アジア・オセアニア	30.4%	29.2%	25.7%	25.9%	29.1%	28.5%
海外売上収益計	79.7%	78.6%	73.1%	76.7%	78.2%	75.6%

従業員数

期末従業員数 (人)	2017/3末	2017/9末	2018/3末	2018/9末	2019/3末	2019/9末	前期末比
国内	19,175	19,616	19,436	19,694	19,456	19,825	+369
海外	53,245	61,312	56,955	61,699	57,191	58,914	+1,723
連結合計	72,420	80,928	76,391	81,393	76,647	78,739	+2,092

主な業績指標

(億円)

項目	項目	FY2018	FY2019	FY2021
		実績	予想	第2期中計目標
為替レート	USD	110.86	107.00	110.00
	EUR	128.40	118.00	125.00
プリンティング	売上収益	7,236	7,100	7,800
ソリューションズ	セグメント利益	945	740	-
ビジュアル	売上収益	2,033	1,960	2,250
コミュニケーション	セグメント利益	212	150	-
ウェアラブル・産業プロダクト	売上収益	1,634	1,560	1,950
	セグメント利益	55	40	-
その他	売上収益	9	10	-
	セグメント利益	-5	-10	-
全社・調整額	売上収益	-16	-30	-
	セグメント利益	-502	-500	-
連結合計	売上収益	10,896	10,600	12,000
	事業利益	704	420	960
	ROS	6.5%	4.0%	8%
	ROE	10.2%	5.1%	継続的に10%以上

(億円)

項目	FY2018 実績	FY2019 予想	Epson 25 第2期3年累計 目標
USD	110.86	107.00	110.00
EUR	128.40	118.00	125.00
営業CF	769	850	3,700程度
FCF	-57	100	1,700程度
研究開発費	582	550	積極的に投下
設備投資	820	840	
リース除く	820	750	2,000程度

主要製品の販売動向

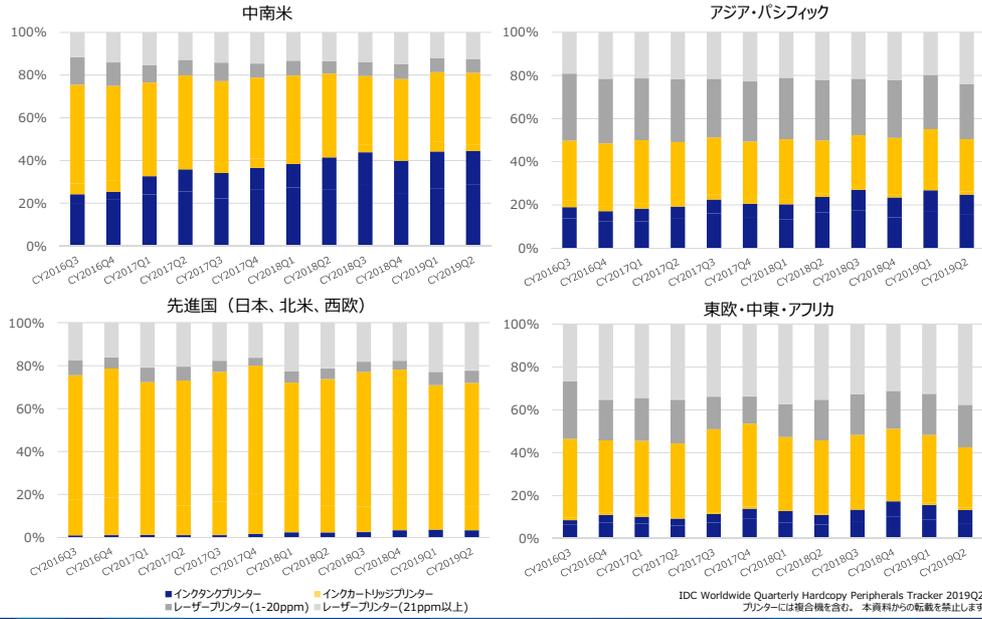
本資料は、エプソン内部の管理値に基づき指標です。伸長率はYoY

* オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンター
I/Cモデル、RIPS、L11の本体・インクを含む。役務・有償サービスは除く

				FY2018 通期 実績	FY2019 1Q 実績	FY2019 2Q 実績	FY2019 通期 予想
USD				110.86	109.93	107.31	107.00
EUR				128.40	123.54	119.34	118.00
プリンティング ソリューションズ	IJP 本体	売上収益（円貨）	伸長率	前期並み	-6%	+0%	+1%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-	-2%	+5%	-
		本体数量	伸長率	-4%	-7%	+6%	+2%
		本体数量	台数	約1,540万台	-	-	約1,580万台
		内 大容量インクタンク	台数	約900万台	-	-	約1,020万台
		内 SOHO・ホーム	台数	約610万台	-	-	約520万台
	IJP インク	インク売上収益比率 インク÷(本体+インク)	構成比	約50%	-	-	47%
		売上収益（円貨）	伸長率	-1桁%台後半	-9%	-6%	-11%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-	-8%	-2%	-
	オフィス共有 IJP* 本体+インク	IJP内売上収益比率	構成比	1桁%台後半	8%	8%	10%
	SIDM 本体	売上収益（円貨）	伸長率	-1桁%台後半	-15%	-14%	-13%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-	-12%	-10%	-
		本体数量	伸長率	-6%	-14%	-10%	-7%
商業・産業IJP 本体+インク	プロフェッショナルプリンティング 事業内売上収益比率	構成比	60%台前半	63%	63%	64%	
ビジュアル コミュニケーション	プロジェクター 本体	売上収益（円貨）	伸長率	+1桁%台前半	-4%	-8%	-3%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-	-1%	-3%	-
		本体数量	伸長率	+1%	-8%	-9%	-4%
		本体数量	台数	約260万台	-	-	約250万台

大容量インクタンクモデルの浸透（数量構成比）

A4サイズプリンタータイプ別市場推移



Color Control Technology	商業・産業印刷における色再現性を高めるカラーマネジメント技術
Epson Connect	エプソンの商品・サービスを対象としたモバイル・クラウドサービス
I/C	Ink Cartridge, インクカートリッジ
IJP	Inkjet Printer, インクジェットプリンター
LIJ	Line Inkjet Printer, 高速ラインインクジェット複合機
LP	Laser Printer, レーザープリンター（複合機含む）
RIPS	Replaceable Ink Pack System, 大容量インクパックモデル
SIDM	Serial Impact Dot Matrix Printers
SOHO	Small Office Home Office, 小規模オフィス・ホームオフィス
オフィス共有IJP	商品カテゴリの1つ。高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/Cモデル, RIPS, LIJを含む
フォト	フォト、グラフィックス、ブルーフ、CAD印刷向け大判プリンターなどが含まれる
商業・産業IJP	商品カテゴリの1つ。商業・産業用途向け大判インクジェットプリンター
大容量インクタンクモデル	エコタンク搭載インクジェットプリンター
大容量インクモデル	大容量インクカートリッジモデル、大容量インクタンクモデル、大容量インクパックモデル（RIPS）、高速ラインインクジェット（LIJ）の総称
分散印刷	同一内容の印刷物を複数のプリンターを用いて印刷する方法
3LCD	プロジェクター方式の1つ。液晶パネル3枚を使う方式
FPD	Flat Panel Display, フラットパネルディスプレイ
OLED	Organic Light Emitting Diode（有機EL）
高光束プロジェクター	交換レンズ機能付き高輝度プロジェクター
WP	ウェアラブル機器事業
MD他	マイクロデバイス他事業

イノベーション	インクジェットイノベーション	ビジュアルイノベーション	ウェアラブルイノベーション	ロボティクスイノベーション	
セグメント	プリンティングソリューションズ	ビジュアルコミュニケーション	ウェアラブル・産業プロダクト		
事業 ・ 主要製品	<p>プリンター</p> <p>大容量インクタンクモデル</p> <p>SOHO・ホーム</p> <p>インカードラッジモデル</p> <p>オフィス共有</p> <p>高速ラインインクジェット複合機 (LII)</p> <p>大容量インクパックモデル (RIPS)</p> <p>オフィス向けインカードラッジモデル</p> <p>SIDM Paper Lab スキャナー レーザープリンター</p> <p>プロフェッショナルプリンティング</p> <p>商業・産業IJP POS</p> <p>フォト サイネージ テキスタイル ラベル ヘッド外販</p> <p>PC他</p> <p>エプソンダイレクトPC</p>	<p>プロジェクター</p> <p>高光束</p> <p>超短焦点</p> <p>スタンダード・ホーム</p> <p>小型 ライティング</p> <p>スマートグラス</p>	<p>ウェアラブル機器</p> <p>エプソンブランド</p> <p>TRUME</p> <p>オリエント</p> <p>ムーブメント</p> <p>セイコービジネス</p>	<p>ロボティクスソリューションズ</p> <p>ロボット</p> <p>6軸</p> <p>自律型双腕ロボット</p> <p>ICハンドラー</p> <p>オプション</p>	<p>マイクロデバイス他</p> <p>マイクロデバイス</p> <p>水晶</p> <p>半導体</p> <p>微細合金粉末</p> <p>表面処理加工</p>

EPSON
EXCEED YOUR VISION